

震災の日

高柳 亮



三月十一日のその時、自分は病院の図書室で、後輩二人と後期研修の振り返り会議を始めたところであった。突然の始まった揺れはみるみるうちに強さを増し、しかも長時間にわたった。図書室の本棚が倒れそうになるのを感じ、押さえていたものの頭の中は真っ白であった。ようやく最初の揺れが落ち着いた時、まず頭に浮かんだのは、自宅のマンション12階で怯える妻と

娘の姿であった。タンスは大丈夫であったか？エレベーターは？不安で足がすくんだ▼後輩たちとともに病院の対策本部立ち上げに加わったものの、不安で頭が回らない。妻への携帯電話はつながらない。病院の緊急用電話を使用した衝動に駆られたが、同じ思いをしている職員は多いはず。自分だけ利用するわけにはいかない。後輩たちの冷静な行動には敬服した。被害状

況の確認、対策マニュアルの準備、役割分担……。優秀な後輩達をもったものだ▼その頃、診療所では全スタッフが所長の留守を守り奮闘していた。デイサービスのエレベーターは停止したため、利用者さん達を階段で1階に降ろした。寝たきりの方もおり大変な作業だ。看護スタッフはターミナルの方をはじめ、酸素や吸引器を利用する重症患者さんの安否確認に奔走した。停電のため吸引が困難となった方2名が呼吸不全に陥ったため病院へ搬送した▼病院対策本部の体制が整い始めたころ携帯電話がなかった。妻からだった。妻と娘はスパーで買った物中に地震に遭遇。多くの商品が落下する中、外に避難し無事であった。今までの人生の中で一番安堵した瞬間であった。妻子には実家に避難するように指示、ようやく自分も冷静さを取り戻した。後になり被災地ではご家族を失いながらも懸命に働き続ける医師や自治体職員がいたこと

を知った。とても自分だったら無理であろうと感じた▼ようやく自分も診療所に戻った。冷静になって思い及んだのは携帯電話の問題であった。24時間で契約を結んでいる重症患者さんからの連絡方法が断絶してしまっ。幸い診療所の固定電話はなんとかつながるようだ。連絡方法の変更のチラシを急遽作成。診療所チームメンバーはお知らせのチラシを手に、停電でいつもより暗い夜をむか

いたがこのままここで診る！自分も決意を固めた。忙しい中駆けつけてくれた救急隊の方は事情を話したところ快くキャンセルに応じてくれた▼いつも地震の心配をしていたAさんは真つ暗な中、笑顔でむかえてくれた。「先生、きてくれたの！」行く先々で安堵の表情と、感謝の言葉にむかえられ励まされる。100世帯以上に連絡を終えたのは深夜であった▼自分には電話番号をため診療所に待機した。次々に飛び込んでくる被害状況を伝えるニュースに胸が痛む。午前2時過ぎ、診療所のドアが鳴り響く。緊急か？いや、現れたのは日中に依頼したエレベーター修理のため駆けつけた、若い技師さん二人。修理の注文が殺到し、朝まで仕事が続くという。会社の指示とはいえ敬服し、缶コーヒールと夜食を差し入れ。憔悴した二人の顔が少し緩んだ▼まんじりともしないまま朝を迎えた。午前の外来を終え、午後はまた重症者の往診。前橋日赤から東北方面に向かい飛び立つていったへりを見送るにつつ往診車を走らせた▼震災後の3週間で3人のターミナル患者さんを御自宅でお看取りした。計画停電に際しては、頻りに吸引が必要な患者さんを洗い出し、充電式の吸引器を調達した。酸素ボンベの切り替えがご自身でできない方には、訪問看護ステーションとも連携し、分担して訪問し酸素投与を続けた。夜間外来は事務長が調達した自家発電器を駆使し予定どおり行なった▼特別なことをしたわけではない。「普通の診療」を続けたということだ。だが、それは震災下においては多くの困難を伴うものだった。「普通の診療」を誇りに思っている。もちろん私たちが診療を続けられたのは、多くの方々の協力があつたからこそである。連携する諸施設、各方面の皆さんに感謝。

(前橋協立診療所 所長)

前橋協立病院受付に寄稿がありましたのでご紹介いたします。

大きな地震災害に想う

私たちは今沢山の便利に
困まれて生きている
便利に振り回されながら
生きている
こんなに便利な生き方で
よいのでしょうか
小さな不便は助け合いを
教えてくれるはず
小さな不便は優しい心を
育てくれるはず
小さな不便は人に知恵を
授けてくれるはず
小さな不便は感謝の心を
感じさせてくれるはず

今回大きな大きな
大自然の力が働いて
大きな災害が起きました
人間が大切に思っている便利は
大きな大きな不便に変わりました
科学の力を借りても
私達人間は絶対に
大自然の力には勝てないのです
人間一人一人が小さな不便を
受け入れて自然と共に
生きることが明日の幸せに
つながって行くと私は思う

私は不便を子供のころから
両手で抱きしめて生きて60余年
今はその手の中にある不便が
人生で最高の幸せ者に
してくれました
小さな不便で今の私は
心の幸せと天国を感じています
皆さん小さな不便を大切に
生きていきましょう

T・M